

日本パブリックリレーションズ協会会員誌

PR SJ

PUBLIC RELATIONS
SOCIETY OF JAPAN

NEWS

2013年2月

NO. 238

TOPICS

「平時の広報、有事の広報」

(公社)日本パブリックリレーションズ協会 理事 坂本 英一
MESSAGE P3

「広報PRアカデミー2012

「グローバル・コミュニケーション講座」の詳細決まる
ATTENTION P4

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会

〒106-0032 東京都港区六本木6丁目2番31号 六本木ヒルズノースタワー5F

電話(03)5413-6760 ファックス(03)5413-2147

URL <http://www.prsj.or.jp/>

関西支部 〒530-0003 大阪市北区堂島2-1-27 桜橋千代田ビル3F

電話(06)6344-3002 ファックス(06)6344-3005

発行人:森 健

2月号 目次

2月・3月のスケジュール	-----	1
<i>MESSAGE</i> (メッセージ)	「平時の広報、有事の広報」	----- 3
<i>ATTENTION</i> (お知らせ)	「広報PRアカデミー2012「グローバル・コミュニケーション講座」の詳細決まる」	----- 4
<i>BULLETIN</i> (活動報告)	「新春PRフェスタ2013 開催報告」	----- 5
"	「広報PRアカデミー2012 PRプランナー3次試験対応講座を終了」	----- 8
<i>PR TREND</i> (PRトレンド(国内))	「日本記者クラブ恒例「予想アンケート」 2013年はどうなる?」	----- 9
"	「ELトレンド指数で見るキーワード・ランキング2012年12月度」	----- 10
<i>PR TREND</i> (PRトレンド(関西))	「関西の風:共に、空を飛ぶ ~航空管制官から教えられたコミュニケーションのあり方~」	----- 11
<i>PLAZA</i> (掲示板)	「日本広報学会『第8回オピニオン・ショーケース』開催のご案内」	----- 12
<i>PRSJ in Media</i>	「1月度協会掲載記事」	----- 13

2月～3月スケジュール

広報PRアカデミー2012 「PRプランナー試験対応コース」 1次試験対応講座	日 時 : 2月5日(火)・12日(火)・19日(火)・26日(火) いずれも 19:00～21:30 会 場 : 六本木アカデミーヒルズ 49 講 師 : (株)プロペラ・コミュニケーションズ 代表取締役 永井昌代氏 (公社)日本パブリックリレーションズ協会 事務局次長 真部一善
広報PRアカデミー2012 「プロフェッショナル 広報・PR実務シリーズ」	日 時 : 2月13日(水) 17:00～21:00 会 場 : 六本木アカデミーヒルズ 49 講 師 : (株)田中危機管理広報事務所 代表取締役 田中正博氏 テーマ : 「危機管理の心構えと クライシス・コミュニケーション推進のポイント」
広報ゼミ(企業部会)	日 時 : 2月21日(木) 16:45～21:00 会 場 : トッパン小石川ビル テーマ : 「デジタル時代のインターナル広報」
PRスキル研究会(PR業部会)	日 時 : 2月26日(火) 17:00～18:30 会 場 : (株)内外切抜通信社 B-1 ホール テーマ : 「～企業広報サポート今昔～ ネット時代でも不变のPRパーソン必須スキル」 講 師 : PRプロデューサー 長沼 宏氏
第220回定例会(関西部会)	日 時 : 2月26日(火) 15:00～19:00 会 場 : 中之島フェスティバルタワー テーマ : 「記者とデスク」 講 師 : 朝日新聞大阪本社 経済部次長 永島 学氏
第145回定例研究会	日 時 : 2月27日(水) 12:00～14:00 会 場 : 日本外国特派員協会(FCCJ) テーマ : 「プライムタイムを独走する『報道ステーション』 ～経済ニュースを題材に絶好調の舞台裏を語る～」 講 師 : (株)テレビ朝日 報道局ニュースセンター経済部長 東 卓夫氏
第12回PRプランナー資格認定 検定1次試験	日 時 : 3月3日(日) 10:20～12:00 会 場 : 法政大学(東京) 毎日インテシオ(大阪) 福岡建設会館(福岡)
広報PRアカデミー2012 「プロフェッショナル 広報・PR実務シリーズ」	日 時 : 3月13日(水) 19:00～21:00 会 場 : 六本木アカデミーヒルズ 49 講 師 : 東海大学 総合経営学部マネジメント学科 教授 小野豊和氏 テーマ : 「世界に向けたグローバル・コミュニケーションの 戦略と活動」
第146回定例研究会	日 時 : 3月19日(火) 12:00～14:00 会 場 : 六本木アカデミーヒルズ 49 講 師 : 講談社「FRAU」編集長 関 龍彦氏

2月の理事会・委員会・部会スケジュール

定例理事会（2月度）	日 時	：	2月 13日（水）	12：00～14：00
	場 所	：	六本木ヒルズクラブ	
幹部会（経営会議）（2月度）	日 時	：	2月 13日（水）	10：30～11：45
	場 所	：	協会会議室	
教育委員会（2月度）	日 時	：	2月 5日（火）	11：00～13：00
	場 所	：	協会会議室	
資格委員会（2月度）	日 時	：	2月 21日（木）	12：00～14：00
	場 所	：	協会会議室	
交流委員会（2月度）	日 時	：	2月 14日（木）	12：00～14：00
	場 所	：	協会会議室	
広報委員会				
PR小委員会(2月度)	日 時	：	2月 20日（水）	14：00～16：00
	場 所	：	協会会議室	
出版小委員会(2月度)	日 時	：	2月 20日（水）	16：00～18：00
	場 所	：	協会会議室	
顕彰小委員会(2月度)	日 時	：	2月 20日（水）	12：00～14：00
	場 所	：	協会会議室	
企業部会幹事会（2月度）	日 時	：	2月 5日（火）	17：00～18：00
	場 所	：	協会会議室	
PR業部会幹事会（2月度）	日 時	：	2月 14日（木）	16：00～18：00
	場 所	：	協会会議室	
IT委員会（2月度）	日 時	：	2月 8日（金）	12：00～14：00
	場 所	：	協会会議室	

平時の広報、有事の広報

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会
理事 坂本 英一

去る1月16日に発生し、世界を震撼させたアルジェリア・イナメナスの天然ガス施設を襲ったテロ事件は、日本人10名を含む多数の犠牲者を出しました。改めて日揮の関係者含め、亡くなられた方々には深い哀悼の念を捧げたいと思います。

事件を報じる日々の報道を見て、事態の推移とは別に、企業で広報に携わる者としてつくづく感じたことは、プライバシーと報道の自由のバランスの問題の難しさ、このような非常事態におかれられた時の当該企業の広報担当のご苦労、の2点です。

一つ目の項目については、今回、犠牲者の実名報道に関する議論がありました。このことについて、本欄で個人的な感想を申し上げるつもりはありませんが、被害に遭われた方や、ご遺族の意向を汲んだ報道のあり方に、少なくともこれまで以上に配慮した報道のあり方が求められているという、昨今の社会意識の変化をメディアの側にも深く受け止める機会になったことと思います。

二つ目の項目については、そうした難しい問題も含め、被害にあった関係者、およびそのご家族と、メディアの間に立たれ、連日テレビに出続け、冷静かつ真摯な対応をされた、日揮の広報・IR部長には本当に頭の下がる思いがしました。言うまでもなく、企業の広報担当者は、平時にいては、自社の商品、サービスから事業、経営に関し、メディアに対し、ポジティブなメッセージを出すことに心を碎いています。しかし、今回のような事件に巻き込まれた場合は、普段の広報活動とはまったく別の、もう一つの広報担当者としての仕事があることを改めて強く認識させられました。

一口に有事といつても様々なケースがあります。今回のようなテロ事件、あるいは東日本大震災のような自然災害等に巻き込まれ、いわば被害者となる立場もあれば、自社のサービス・商品の欠陥や、経済事件などで、謝罪する立場、いわば「悪者」として社会と対峙しなければいけないケースもあるでしょう。

具体的な事例を挙げることは控えたいと思いますが、実際、この10年でも様々な不正・不祥事の中で、広報担当者として「やってはいけないこと」の実例を何例か見させられました。

悪いことは想定したくない、だから普段は考えることを止めてしまう。
そしていざ、事が起きてから、対応が後手後手となり、あるいは世間の認識とのギャップに気づかず、結果として更に世間から指弾される。

こういうことにならないよう、何もない平時にこそ、常に最悪のケースが起りうることを想定し、「その時」に備える心構えを持っている必要性を、今回の悲惨な事件に胸を痛めつつも、改めて感じた次第です。

広報PRアカデミー2012

「グローバル・コミュニケーション講座」の詳細決まる
—東海大学 総合経営学部教授の小野豊和氏を講師に招聘—

教育委員会

教育委員会では、3月13日開講予定の「プロフェッショナル広報・PR実務シリーズ グローバル・コミュニケーション講座」の詳細を決定し、受講受付を開始しました。

講師には松下電器産業㈱（現パナソニック）において広報、人事、経営企画、国際人事を担当され、現在、東海大学 総合経営学部マネジメント学科において教授としてご活躍の小野豊和氏を招聘、「世界に向けたグローバル・コミュニケーションの戦略と活動」をテーマにご講義いただきます。特に、本講座では広報・PR実務の参考となるよう講師のご経験や様々な実例を交え、以下3つの観点からグローバル・コミュニケーションについてお話しいただきます。

(1) 企業の国際展開に有効なブランド力強化

世界を制覇した”Panasonic”ブランドの誕生秘話。五輪パートナーという社会貢献ビジネスの原点は企業理念にあることを示し、ブランド確立に向けパナソニックが取り組んだコミュニケーション活動の取り組みについて、講師が自らのご経験に基づいて解説します。

(2) 狙われる有名企業の危機管理とコミュニケーション対応

先日発生したアルジェリア人質事件。日本人9名を含む多くの命が失われる結果を迎える前に、会見に臨む広報担当者の悲痛な表情からは、危機的事態における広報対応の難しさがうかがわれました。1996年にペルーで発生し時間をかけた取り組みにより日本人全員の生還を果たした駐ペルー日本大使公邸占拠事件。子会社のペルー松下が事件に巻き込まれるという事態に際し、松下電器産業（当時）では、大阪・東京・リマ3極で127日間24時間体制で広報対応を行い、解決時における帰還記者会見に漕ぎ着けました。当時、同社の広報担当として講師が日々緊迫した現場で行った対応について言及し、グローバル化する企業の危機管理と、危機的事態におけるコミュニケーションについて考えます。

(3) 従業員一体化のツールとしての企業内メディアの活用

グローバル化の進展とともに世界に展開する日本企業。「松下イズム」という同一アイデンティティに基づく国を超えた従業員一体化の世界的な取り組みに触れ、インナーコミュニケーションにおけるメディアの効果的な活用についてお話しします。

講座の詳細/お申込みは、日本PR協会Webサイト”セミナーイベントを探す”の「専門・応用コース/プロフェッショナル広報・PR実務シリーズ」ページ（以下URL）をご参照ください。

<http://event.prs.j.or.jp/event/advanced/professional>

■プロフェッショナル広報・PR実務シリーズ概要（2～3月）

日 時	講座テーマ	講 師	締 切
2月13日(水) 17:00～21:00	危機管理の心構えとクライシス・コミュニケーション推進のポイント	（株）田中危機管理広報事務所 代表取締役社長 田中正博氏	キャンセル待ち 受付中
3月13日(水) 19:00～21:00	世界に向けたグローバル・コミュニケーションの戦略と活動(仮)	東海大学 総合経営学部マネジメント学科 教授 小野豊和氏	3月8日 (金)

「新春PRフェスタ 2013」開催報告

1月23日（水）六本木アカデミーヒルズ49階において、「新春PRフェスタ 2013」と銘打つて協会主催のイベントが開催され、「新春PRフォーラム」「新年懇親会」合わせて延べ人数188名（取材関係5社6名）の方々のご参加をいただきました。

当日は、日本PR大賞「パーソン・オブ・ザ・イヤー」及び「シチズン・オブ・ザ・イヤー」表彰式から始まり、「新春特別講演会」、「新年懇親会」と続き、新春の一日を協会の行事で過ごしていただきました。

各々の報告は以下の通りです。

【第4回新春PRフォーラム】

16:00から六本木アカデミーヒルズ49「スカイスタジオ」において「第4回新春PRフォーラム」が開催されました。第1部では、日本PR大賞「パーソン・オブ・ザ・イヤー」及び「シチズン・オブ・ザ・イヤー」の表彰式を執り行いました。



まず、2012年度日本PR大賞「パーソン・オブ・ザ・イヤー」の表彰式では、受賞者の日本文化研究の第一人者で、コロンビア大学 名誉教授のドナルド・キーン氏が、また、2012年度日本PR大賞「シチズン・オブ・ザ・イヤー」は、財団法人 丸岡町文化振興事業団 常務理事の大廻政成氏が受賞され、それぞれ森理事長からトロフィーと副賞の目録が贈呈されました。

贈呈後おふたりから各々受賞スピーチをお願いいたしましたが、ユーモアも随所にちりばめられたすばらしいスピーチでした。



第2部は新春特別講演として「2013年、世界と日本の課題—課題解決への視座」をテーマに、㈱三井物産戦略研究所会長、多摩大学学長の寺島実郎氏にご講演いただきました。

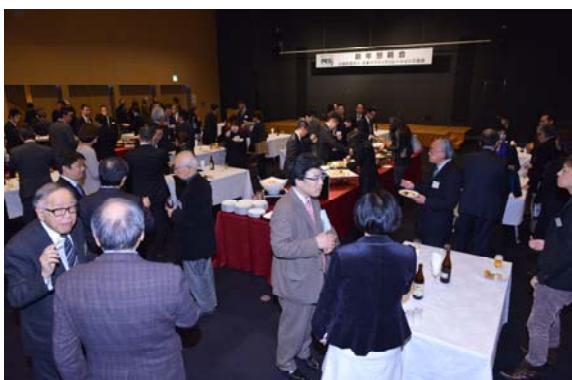


「第4回新春PRフォーラム」は85名の方にご参加いただきました。

なお、講演内容は、次号（協会ニュース3月号）でご報告させていただきます。

【新年懇親会】

新春PRフォーラムが終了後、会場を「タワーホール」に移し、新年懇親会を開催いたしました。

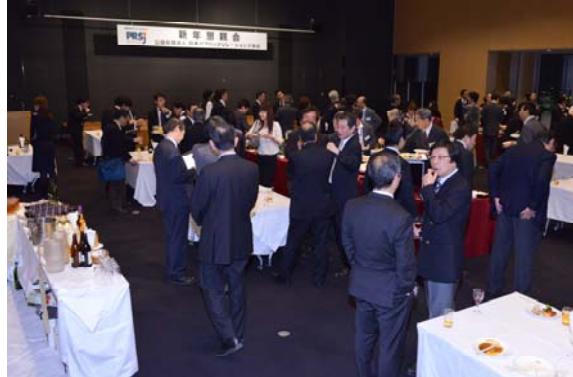
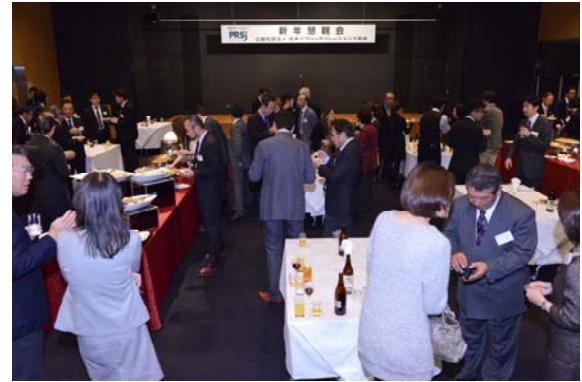


理事長挨拶に続き、来賓を代表して、経済産業省 商務情報政策局 文化情報関連産業課 課長補佐の仲 舎菜子氏のご挨拶、引き続き、事前に開催された新春PRフォーラムで、第1回日本PR大賞「シチズン・オブ・ザ・イヤー」を受賞された大廻政成氏がご紹介され、簡単なご挨拶をいただきました。

日本広報学会 理事長 濱田逸郎氏のご挨拶と乾杯のご発声ののち、懇談の場へと移りました。

この日は各コーナーで用意されたお酒や料理に舌鼓を打ちながら談笑したり、名刺交換をするシーンが数多く見受けられました。

会員がお互いに仕事や近況の話に花を咲かせる中、20時05分に副理事長 山田悦朗氏による中締めの挨拶があり、盛況のうちに2012年度の新年懇親会が終了いたしました。



なお、今回の新年懇親会は、103名の皆様にご参加いただきました。

参加者の皆様、ありがとうございました。

広報PRアカデミー2012

PRプランナー3次試験対応講座を終了

—1次試験対応講座は2月5日より開講—

教育委員会

教育委員会では、第11回PRプランナー3次試験を間近に控えた昨年12月5日より今年1月22日まで、6回にわたり「PRプランナー3次試験対応講座」を六本木アカデミーヒルズにて開講しました。

会場で講義とグループ演習に取り組む会場受講、Web受講のPRプランナー志望者約40名が本講座に取り組み、ニュースリリースの作成と、広報・PR計画の立案作成(マーケティング課題、コーポレート課題)についての知識と実践的なスキルを習得し、1月26日に実施された3次試験に臨みました。

「合格するニュースリリースの作成法」講座は株ミラ・ソルの田代順氏、「広報・PR計画の立案作成(マーケティング課題)」では株インテグレートの赤坂幸正氏、「広報・PR計画の立案作成(コーポレート課題)」は株電通パブリックリレーションズの岡本純子氏が講師を担当、広報・PR業務における長年の経験を生かした指導を行っています。

今回は、多忙な業務にもかかわらず講座を欠席する受講者が極めて少なく、また講義に対する真剣な眼差しが多くの受講者にみられました。講座を通じて知識とスキルを確実に身に付けた多数の合格者が期待されます。

なお、教育委員会では、3月3日に実施される第12回PRプランナー認定1次試験の受験者を対象とした「PRプランナー1次試験対応講座」を2月5日より開講します(1月号で既報)。

インターネットを活用してご自身の都合に合わせた受講を可能としたWeb受講は、開講後も申込みを受けます。詳細/お申込みは、日本PR協会Webサイト"セミナーイベントを探す"の「PRプランナー試験対応コース/1次試験対応講座」ページ(以下URL)をご参照ください。
http://event.prsj.or.jp/event/prp/1st_exam



日本記者クラブ恒例「予想アンケート」 2013年はどうなる？

日本記者クラブは、毎年、新年会の余興として「今年はどんな年に？？？」——という「予想アンケート」を行っています。2013年の予想項目は以下のようです。はたしてどうなるか。あなたの予想はいかがでしょうか？！

- | | | |
|--|-------|-------|
| ① 12月31日現在のわが国の首相はだれか | 占める | 占めない |
| ② 夏の参院選で自民、公明両党の合計議席が非改選と合わせて過半数を | | |
| ③ 外国為替市場で円安が進み、一時的にでも1ドル=100円台に突入することが | ある | ない |
| ④ 年内に日本はTPP交渉に参加して | いる | いない |
| ⑤ 12月31日現在の日本銀行総裁は誰か | | |
| ⑥ シリアのアサド政権が崩壊 | する | しない |
| ⑦ 10月から年末まで尖閣諸島における領海・領空侵犯は | なくなつて | なくなつて |
| | いる | いない |
| ⑧ 12月31日現在、国内で稼働している原子力発電所の数は | () 基 | |
| ⑨ 2020年夏季五輪の開催地が東京に | 決まる | 決まらない |
| ⑩ 競馬の凱旋門賞で日本馬が優勝 | する | しない |
- ※凱旋門賞は、毎年10月の第1日曜日にフランス・ロンシャン競馬場で開催される、世界で最も権威がある競馬レース。2012年は、オルフェーヴル(2011年の三冠馬)が挑戦したが、2着となり、日本馬初制覇はできなかった。

※ ちなみに2012年予想アンケートとその結果は以下のとおりでした。

- | | |
|---------------------------------|------|
| ① 12月31日現在のわが国の首相はだれか | 安倍晋三 |
| ② わが国で衆議院の解散が | ある |
| ③ 税率と実施年月日を定めた消費増税法案が成立 | する |
| ④ 外国為替市場で円高が進み、1ドル=60円台に突入することが | ない |
| ⑤ ユーロ圏からギリシャの離脱決定が | ない |
| ⑥ 米大統領選挙でオバマ大統領が再選 | される |
| ⑦ 全国すべての地域で計画停電を回避 | できる |
| ⑧ iPS細胞の山中伸弥・京都大学教授がノーベル賞を受賞 | する |
| ⑨ 大相撲で日本人横綱が誕生 | しない |
| ⑩ ロンドン五輪でなでしこジャパンが金メダルを獲得 | しない |

※ 上記は、日本記者クラブ、ホームページより紹介しました。

ELトレンド指数で見るキーワード・ランキング 2012年12月度

（株）エレクトロニック・ライブラリーは、2012年12月度の「話題のキーワード・ランキング」を発表しました。

これは、10月に発行された新聞96紙・雑誌約100誌のうち、「E L N E T」に登録されているキーワード約263万語のヒット数の増減を数値化した「ELトレンド指数」等をもとに「一般キーワード」と「企業キーワード」に分けて分析したものです。

「一般キーワード」と「企業キーワード」のTOP10は以下の通りです。

■ 2012年12月度 EL一般キーワード TOP10

順位	トレンド指數	キーワード	順位	トレンド指數	キーワード
1位	16.67	日本未来の党	6位	7.29	中央自動車道
2位	13.73	篠子トンネル	7位	6.64	安倍内閣
3位	11.28	崩落事故	8位	6.27	新政権
4位	10.85	日本維新の会	9位	6.06	代表代行
5位	9.86	天井板	10位	5.94	安倍政権

■ 2012年12月度 EL企業キーワード TOP10

順位	トレンド指數	キーワード	順位	トレンド指數	キーワード
1位	2.25	新日鉄住金	6位	1.64	日本郵便
2位	2.25	中日本高速道路	7位	1.45	ウシオ電機
3位	2.00	日本原子力発電	8位	1.41	新銀行東京
4位	2.00	クアルコム	9位	1.41	岐阜日野自動車
5位	1.84	日本銀行	10位	1.39	アイフル

※E L N E Tホームページでは毎月の発表を週刊にバージョンアップした上で、
「ELウィークリートレンド」として毎週水曜日に発表しています。
詳細は以下ご参照ください。

<http://www.elnet.co.jp/el/trend/index.html>

＜コラム 関西の風＞

共に、空を飛ぶ ～航空管制官から教えられたコミュニケーションのあり方～

パナソニック(株) エコソリューションズ社
大阪広報チーム チームリーダー
久保 善行

今年の元旦の早朝、家の近くの淀川の堤防を散歩している時のこと。何気なく空を見上げたところ、ひとすじの「飛行機雲」が長く伸びていて、その先に米粒より小さい航空機の機影が見えました。その光景を見て、3~4年前にパナソニックグループの社内マネジメント誌の編集のために取材した、東京国際空港(通称:羽田空港)のある主管管制官のことを思い出しました。

昨年12月で放送終了となつた某テレビ局の「東京エアポート」という東京空港管制保安部の管制官のドラマをご覧になつた方も多いのではないかと思います。日本列島周辺の空域では、北から札幌、東京、福岡、那覇の4つの航空交通管制部が航空路管制業務を提供しています。ちなみに関西の空は、東京航空交通管制部が受け持っています。

管制官たちは、無線やレーダーを通じて、航空機を安全に離発着させたり、エンルート(航空路)を飛行できるよう、パイロットとさまざまなコミュニケーションを取ります。

私が取材した羽田空港の主管管制官も若い時は、とにかく、早く航空機を空港に着陸させ、その後、早く別の航空機を離陸させるというように、とにかく航空機を「さばく」ことに仕事のやりがいを感じていたと語っておられました。後にこの管制官は、研修の一環として、実際に航空機のコクピットに乗り込み、パイロットが乗客の命を背負いながらの操縦に精神的プレッシャーを負いながら、複雑な操縦・作業に追われている光景を目の当たりにします。

これを機にこの管制官は、単にシュミレーションゲームのように航空機を「さばく」のではなく、レーダー画面を見ているだけではわからない風の動きを正確に読み、また、今、パイロットが何を考え、どんな状況にいるのかということを頭に思い浮かべ、いかにパイロットの精神的プレッシャーをやわらげながらも、安全かつ効率的に航空機を離発着させるか――。「共に、空を飛ぶ」という、上空のパイロットの気持ちに寄り添いながら指示を出していくことを心掛けるようになったそうです。このことにより、これまで、パイロットから必要最低限の言葉しか返つてこなかつた無線交信に、業務とは関係のない「丁寧なインフォメーションありがとう」という言葉が添えられるようになったといいます。

これこそが、眞のコミュニケーションだと思います。

パナソニックには「次工程はお客様」という言葉があります。営業部門だけではなく、我々、間接部門のスタッフは、直接、お客様と接する機会はありませんが、社内の関係者に仕事を回す際にも相手の立場に立って仕事をすることが大事であるという考え方です。広報業務に携わる一員としても、報道関係者はもちろんのこと、一般の読者・お客様など、情報の受け手の立場を理解し、寄り添つた上での情報発信、コミュニケーション活動の大切さを年頭にあたり、改めて痛感した次第です。

日本広報学会より以下のとおり「第8回オピニオン・ショーケース」のご案内をいただきましたので、会員の皆さんにお知らせいたします。

日本広報学会 『第8回オピニオン・ショーケース』 開催のご案内

オピニオン・ショーケースは、若手・異分野・新分野研究者や実務家からの今日的な問題提起を受け、参加者を交え自由闊達かつ濃密な議論を行おうとするものです。研究発表大会が「研究成果」を発表する場であるのに対し、オピニオン・ショーケースは「問題意識」を投げかけ、参加者が忌憚なく議論を交わす場です。

このため、対象テーマは「研究の緒に着いたもの」、「研究対象として検討しているもの」、「今後研究対象となりうる事例」など、未完成の領域を含め幅広い分野となっています。各研究部会の中間報告や意見交換の場としてもご活用いただきたいと思います。

当日は発表者から20分間の報告を受け、コメントによる進行により、会場内の参加者を交え10分間のディスカッションを行います。研究発表大会で討議された諸テーマを一層深化させるための問題提起や、全く新しい研究分野など野心的なエントリーを期待します。

記

- 開催日時 : 2013年3月5日(火) 13:30~17:00
- 会場 : アルカディア市ヶ谷(私学会館) 6F 「貴船」
東京都千代田区九段北4-2-25 TEL:03-3261-9921
(JR中央緩行・総武線「市ヶ谷」駅
地下鉄/東京メトロ有楽町線・南北線・都営新宿線「市ヶ谷」駅
A1-1出口より徒歩2分)
- 発表時間 : 原則として1コマ30分(発表20分、ディスカッション10分)
- 参加費 : 2,000円(発表者、参加者ともに)
- 発表者公募要領:
 - 応募締切 2013年2月12日(火)
 - 応募方法 次ページ申込用紙に、氏名・所属・連絡先等のほか、発表タイトル、発表概要(600字以上1000字以内の要約)を記入して、日本広報学会 事務局宛にメールまたはFAXにてご送付ください。
 - 審査方法 事業委員会にて検討の上、発表依頼者には発表要領等についてご連絡いたします。

※この件に関するお問合せ

日本広報学会 事務局長 矢野 充彦

〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-2-7 第二浦野ビル402

Tel: 03-5283-1104 Fax: 03-5283-1123

e-mail: jsccsty@gamma.ocn.ne.jp

PRSJ in Media

●1月1日(火) 『アドバタイムズ』

当協会・森 健 理事長の新年挨拶が、『アドバタイムズ』新年特別号に記事掲載されました。

本記事では、「ネットワークの場を提供し業界の力を結集。『充実の一年』に」との見出しのもと、広報・PRの分野で広く社会に貢献するという、公益社団法人化を遂げた当協会の使命を再確認し、さらに昨年の当協会の事業として「広報PRアカデミー」「PRプランナー資格制度」の事業展開にふれ、社会的ニーズ、多くの人々の要望に対応してきたと総括しました。そして、今年度はPRプランナー相互の交流機会の創出をはじめ、SNS対応、ステルスマーケティング問題、グローバル展開、危機管理等の多くの課題に力を結集し、今年を「充実の一年」としてくという決意が述べられています。

(事務局・真部)

編集担当より

会員のみなさんの情報を寄せください！！

本誌では会員の動向・消息や、会員から会員へのお知らせなどを積極的に掲載いたします。ビジネスに直結する情報に限らず、会員交流に関するものでも結構ですので是非ご一報ください。

編集担当より

本誌の内容に関するご意見・ご希望をお寄せください。
中身の濃い会員誌に育てていきたいと思いますので、
よろしくお願ひ致します。

広報委員会

Eメール mail@prsj.or.jp

FAX 03-5413-2147

※ 禁転載